

# TEGOネットだより浜田

はじめに

てご・・・とは、方言で「手伝う（支援）」の意味です

平成19年12月6日 第7号

支援センターが4月に発足し、9ヶ月が過ぎようとしています。農家の皆さんの相談や要望も多く、職員一同奮闘してきたところです。日本の食料の根幹をなす米は、過剰生産という中で米価の下落が報道され、生産者にとって避けて通れない死活問題となっています。農政の施策も、品目横断的経営安定対策の見直しや、戸別所得保障制度の話など、混迷の一途をたどっています。また、食料・農業・農村をめぐる情勢をみると、食の安全に対する関心の高まり、食料自給率の低迷、農業労働力の高齢化や土地利用型農業の構造改革の立遅れ、農村地域の活力低下や、地域資源保全管理の困難性増大等への対応が大きな課題となり、WTOの農業交渉等を踏まえた農業の競争力の議論もされています。

その一方で、全国各地で地産地消、食と農の連携、農産物輸出、地域ブランドの確立、都市と農村の共生・対流など、地域の創意・工夫を活かした新たな動きがみられます。私たちは補助金に頼るだけではなく、地域でどのように自立していくのか知恵を絞らなければなりません。

今年は大変お世話になりました。来年も皆さんと一緒に浜田市を盛り上げていきたいと思えます。

(浜田市農林業支援センター職員一同)

## 目次

1. 各支援チームの動きについて
2. 「金城ピオーネ」今年の出来具合は？
3. 行事予定について

### 1. 各支援チームの動きについて

#### ★ 新規就農支援チーム 担当：河内・佐々本

「〇〇の作物なら、〇〇円儲かるらしい」という売り上げだけが先行してしまい、その作物のイメージとして定着している場合があります。

確かに、収量×販売単価で売上額が決まりますが、その作物を栽培するために要した経費を差し引いて初めて利益(=所得)が発生します。新規就農する際には、**その作物の必要経費を知り、正しい所得率を知ることが重要です。**

また、**標準的な経費をどれだけ削減できるか**は、大きな検討材料です。例えば、50万円の初期投資を軽減できたとすると、何も検討していない方と比べると、就農検討だけで50万円の純利益を得たのと同じこととなります。これが毎年の必要経費の軽減ができれば所得率の向上につながります。ですから、早く就農したい方にとっては、**就農検討会**や**技術習得研修**が遠回りに感じられるかもしれませんが、とても大切なことだと思います。

なお、経費の軽減には、**技術力**が大きくかかわってきますので、**収量の確保**と併せて検討していく必要があります。

#### ● 認定農業者支援チーム 担当：前原・末田

今回は、金城町で**切花の栽培**をされている認定農業者、**青木幸路**さん(写真右上)を紹介します。

青木さんは、**オリエンタルユリ**や**カラー**等の**切花栽培**を中心とした農業経営を確立するとともに、冬場の農閑期には有害鳥獣でもある**イノシシの猟**をするなど、実益を兼ねた趣味もお持ちです。切花の単価が低迷する中で、少しでも有利な販売に結びつけようと**加工包装した花束の出荷**を検討し、経費圧縮と省力化のために多年生の**新規品目導入**を目指すといった経営努力をされています。将来的にはご家族が経営する**観光農園**への来園者も視野に入れながら、「**消費者のニーズに合った商品を生産・出荷していきたい!**」との意気込みをお聞きしました。

支援チームとしても、目標の実現に向けて積極的に応援していきます!!



青木幸路さん(金城町)

■ 集落営農支援チーム 担当：塚本・森井

10月4日発行の第5号でも紹介しましたが、集落の農業の維持・発展を図るため活発に活動されている伊木営農組合の活動を引き続きご紹介します。

伊木営農組合では法人設立準備委員会を立ち上げて検討会を実施しており、集落内農地の荒廃を防止し、集落機能を維持・発展させていくため、集落営農法人の立ち上げを模索されています。

去る11月10日には23名が参加し、益田市の農事組合法人2ヶ所の先進地視察を実施しました。先輩格である農事組合法人を実際に見てお話を聞くことにより法人設立の経過から運営や現状等を知ることができ、「こういうやり方なら伊木でもできるのではないか」と言う点もあり、今後伊木での組織体を検討していく上で参考になることと思います。

また、帰りのバスの中では、伊木法人設立準備委員会の委員長より決意表明ともいえる、今後の方向性について力強いお話がありました。

参加者の皆さんも刺激を受け、今後のステップアップへの意識高揚となったことと思います。集落営農支援チームとしては、引き続き合意形成を促すために集落の抱える課題や法人化に対する疑問点について分かりやすく説明し、課題解決に導けるよう話し合いの支援を進めていきます。



先進地視察研修（益田市上黒谷町 11/10）

2. 「金城ピオーネ」今年の出来具合は？

本年産金城ピオーネの出荷販売は、数量・金額共に過去最高となりました。

金城町がピオーネの栽培に着手して今年で6年目を迎えますが、なかでも平成15・16年度に県の支援事業で植栽した園地の出荷が本格的に始まりました。

出来栄は、他産地のピオーネに勝るとも劣らない品質・味となり、県内はもとより、関西大手スーパーでも販売して頂き、一層「金城ピオーネ」の名声を博しました。

また、よりこだわった商品として、高糖度「ネットピオーネ」の特許出願も行い、新規デビューを果たし、今後大きく期待されています。

	数 量	金 額
ネットピオーネ	461kg	665 千円
ピオーネ	4,535kg	6,631 千円
加工用	469kg	230 千円
合 計	5,465kg	7,526 千円

参加申し込みは不要です。

3. 行事予定について

○12/17（月）11：00～16：00（出雲市民会館）試験研究・普及活動成果発表会

■■ 編集後記 ■■

これまでも、農地の斡旋機能については農業委員会が担っておりますが、やはり現場で農業者の方とお話しする機会の多い当センター職員も、積極的に機能の一役を担っていきたくと考えております。もちろん農業委員会も引き続き継続して斡旋業務を行います。今後は当センターと農業委員会において情報共有を図りながら、農地情報の確保と情報提供を行っていく予定です。農地を貸したい又は借りたい等の情報がございましたら、下記の連絡先までお願いします。

○当情報誌は新規就農者、認定農業者、集落営農組織と関係機関の皆様へ配信しています。  
○ご意見、掲載要望、または配信停止をご希望される場合は下記までご連絡ください。

■ 発刊元 浜田市農林業支援センター TEL：22-3500 FAX：22-3477  
E-mail：hama-nou-shien@bz03.plala.or.jp